

第6期宮前区区民会議第5回会議

第6期宮前区区民会議第5回会議

- 1 日 時 平成29年6月16日（金）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所4階大会議室
- 3 出席者
 - (1)委 員 川田委員長 青柳副委員長 影山副委員長 中里部会長
荒川委員 老門（泰）委員 老門（聰）委員 大久保委員 小田委員
黒澤委員 砂川委員 滝本委員 田辺委員 椿委員
中村委員 山田委員 山部委員
 - (2)参 与 織田参与 矢沢参与 持田参与
 - (3)事務局 小田嶋区長 堤副区長 福嶺区民サービス部長 小林向丘出張所長
益子保健福祉センター所長 高階保健福祉センター副所長
小林道路公園センター所長 吉越生涯学習支援課長 安藤総務課長
高石企画課長 大木企画課課長補佐 米塚企画課担当係長
事務局（小西、岩下）
- 4 議 事
 - (1)審議経過報告①地域福祉部会（公開）
 - (2)審議経過報告②みやまえ活性部会（公開）
 - (3)部会審議内容についての質疑応答・意見交換（公開）
- 5 その他連絡事項
- 6 傍聴者数 1人

午後6時開会

司会（堤） 定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。

本日の進行を務めます宮前区役所副区長の堤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。恐縮でございますが、ここで着席させていただきます。

会議開催に先立ち事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただいております。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので御了承いただきたいと存じます。また、会議録の作成に当たり、速記者に同席をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。そして、本日の発言のございました方々につきましては、後日、議事録の確認をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページに掲載いたします。また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートへの御回答をいただきたいと思います。

次に、本日の委員、参与の出欠状況等について御報告いたします。区民会議委員につきましては、佐藤部会長、葛西委員から事前に御欠席の連絡をいただいております。

す。参与につきましては、矢沢参与、持田参与から御出席の連絡をいただいております。なお、石田参与、渡辺参与からは事前に欠席される旨の御連絡をいただいております。

続いて、今年度異動のありました職員を紹介させていただきます。まず、区民サービス部長の福嶺でございます。続きまして、保健福祉センター副所長の高階でございます。続きまして、総務課長の安藤でございます。最後に、企画課担当係長の大木でございます。以上、どうぞよろしく願いいたします。

1 開会あいさつ

司会（堤） それでは、議事に先立ちまして、宮前区長の小田嶋から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 どうも皆様こんばんは。宮前区長、小田嶋でございます。どうぞよろしく願いいたします。

きょうは宮前区区民会議の委員の皆様、また、参与の議員の先生、第5回の区民会議にお集まりいただきましてありがとうございます。この区民会議につきましては、私が説明するまでもなく、皆様方のほうがもう十分御存知で、逆に本当のことを言うと、私のほうがしっかり勉強しなきゃいけないという立場であるのかなと思っています。

第1回から第5回までの中間報告、そしてまた総括報告書を読ませていただいたり、また、みやまえ区民会議だよりを目を通させていただいて、この10年間、区民の方々、委員の方々が地域課題の解決のために主体的にいろいろとアイデアを出し合って区長への提案をしていただいたということが十分わかってきました。この第6期も折り返しを過ぎたところで、昨年度は2つの専門部会と、あと企画部会ということで進めていただいて、3月にはフォーラムを開いていただいて、そのフォーラムでの状況のその後の2つの部会での取り組みをきょう御報告いただけるということで、これからの区長への提案に向けて、またきょうも熱心な御討議をしていただければと思います。

簡単ではございますが、区長としての挨拶とさせていただきます。どうぞきょうはよろしく願いいたします。

司会（堤） ありがとうございます。

織田参与が到着されましたので、御紹介をいたします。よろしく願いいたします。

次に、本日皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきたいと存じます。まず、表紙が本日の会議の次第、資料1が座席表、資料2が委員・参与・

事務局名簿、資料3が第6期区民会議の進行イメージ、資料4が審議経過報告資料でございます。以上が本日の会議資料でございます。

また、そのほかに委員及び参与の皆様には影向寺遺跡跡地見学会のチラシと、宮前区保護司会の会報をお配りしてございます。不足等はございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、これより第6期宮前区区民会議第5回全体会議を開催いたします。これからの進行は委員長にお願いいたします。川田委員長、よろしくお願いいたします。

2 議事

川田委員長 それでは、改めまして、皆さんこんばんは。本当にお疲れさまでございます。

3月のフォーラム以降、2回ほど部会を行いました。そして1回、見学等がございましたけれども、これから検証しながら区長提案というような運びになっていくと思います。フォーラムの実施によりまして、これから先の進行状態が見えてきたのではないかなと思っております。この間、2回の部会でいろいろ意見を交わしてまいりましたが、いいものができるのではないかなと思っております。ここでもう一度、その経過をみなさんで確認しながら、また今後につなげていければと思っています。

(1) 審議経過報告①地域福祉部会

川田委員長 それでは、第1回目、地域福祉部会の経過報告を中里部会長より行います。よろしくお願いいたします。

中里部会長 皆さんこんばんは。地域福祉部会長の中里でございます。

それでは、資料4に基づきまして御報告をさせていただきますと思います。

地域福祉部会、副題としまして「多世代による地域支え合い」という副題をつけました。なお、部会の審議経過を報告いたします。

3月11日、昨年度末に区民会議フォーラムを開催いたしました。その部会の企画として認知症サポーター養成講座を開催いたしました。今年度に入ってから、これまでに2回の部会を開催しています。4月10日、月曜日には第6回の部会を開催しまして、部会名をやっと決定したということでございます。そのほか区民会議フォーラムの振り返り、今後の進め方を踏まえたテーマの検討などを行いました。それから、5月1日には第7回の部会を開催いたしまして、審議テーマについては具体的な取り組み事例や今後行う取り組みの方向性についてを話し合いをいたしました。それから、6月7日の水曜日に土橋カフェの視察ということでございました。この後、この各項

目について少し詳しく報告をさせていただきたいと思います。

まず、3月11日に開催されました宮前区の区民会議フォーラムの中で実施いたしました認知症サポーター養成講座でございます。この講座は既に各区内のさまざまな団体や学校などでも開催実績がある講座なんですけれども、企業からの取り組みや体験事例の報告を伺ったり、多世代が一緒に学ぶ場として今までない形を今回目指しました。

当日は川崎記念病院や認知症サポーターキャラバンメイト、認知症患者家族会の方々に協力をいただきまして、また、区内の中学生も含めまして約30名の御参加をいただきました。参加者は認知症サポーターを受講しましたというあかしでありますオレンジリングを取得しました。そのほかに、今回は区民会議としてオリジナルの修了証も発行いたしました。名刺判で宮前兄妹のコスミンちゃん、メローちゃんをあしらったカードなんですけれども、講座を受けて、きょうの講座は何だったんだろうというような人がいるんじゃないか、あるいはサポーター養成講座を受けて、少しでも何か残ってほしいなということを含めまして、普通はこういうサポーター養成講座を受講しても修了証というのはないんですけれども、今回の区民フォーラムではこういったものを発行いたしました。裏には認知症の方の対応の心得ですとか、あるいは7つのポイントも書いたカードをお渡しいたしました。

続きまして、当日参加いただいた皆さんに感想やらアンケートをいただいたんですけども、その主なものを紹介させていただきたいと思います。全体的に講座内容の評価あるいは理解度は高かったようです。新たな知識を得たこと、特に現場の声を聞いたことが評価されたようでございます。また、当日、コンビニのセブンイレブン、このお隣の東急ストアの方も、企業の方も参加いただきまして、特に企業が参加して取り組みの報告を行ったことは、これまでの講座では余りなかったことで、大きな意義があったというような意見がありました。

また、認知症を初めて自分のことのように理解することができたというような中学生や、初めてこういう受講した方の意見もありました。

また、反対に、ちょっと不満といいますか、要望がありまして、それは最後に参加者同士の話し合いの時間がもう少し欲しかったというような声何人かの参加者から出ました。普通、認知症サポーター養成講座は90分の時間を目いっぱい、講義といいますか、いろんなお話で終わってしまうんですが、地域フォーラムでは少し皆さんで交流をしていただこうということで、その90分の中に15分間だけ最後、皆さんで意見交換をやり、交流の時間をとったんですが、逆にそれが短過ぎて、もう少し時間が欲しかったなというような意見が出ていました。今後に向けてケーススタディーを重ねたいとか、もっと多くの方に受講をしてもらいたいというような意見もございました。

次に、第6回の会議のまとめということで、4月10日に開催をいたしました第6回の会議についてですが、会議では、このフォーラムの結果を受けまして、最終的なまとめとしまして、次の2つのテーマを今後の市民の方向性として確認をいたしました。1つは、認知症の理解、それから地域支援の推進、このテーマをこれからも継続して行っていこうということです。それからもう1つ、2番目としましては、企業や商店の場、スペースの活用も視野に入れた、みんなの食堂や地域のたまり場、居場所などの形成についても今後検討していこうというようなことが話し合われました。

その6回の検討の内容の、まず第1のテーマですね。認知症の理解、地域支援の推進ということですが、3月11日の区民会議フォーラムでは企業や中学生など、多様な参加者がともに学ぶことができました。認知症サポーター養成講座を企画し、開催することができました。企業の取り組みや家族会の体験談を伺うことができて、多世代の参加を得られたことが好評だったことを受けまして、今後の方向性として以下のようなことをちょっと考えております。

まず、講座の修了生というか、修了した人のその後のフォローアップをしたり、地域の活動状況などの情報を共有する場を構築しようではないか、あるいは、もう1つですが、他の企業や団体など、さらに参加の輪を広げる取り組みや場を目指そうということでございます。

それから、もう1つの6回の討議内容の続きですけれども、もう1つのテーマ、企業や商店の場、スペースの活用、みんなの食堂、地域のたまり場は、これまで1つ1つ個別のテーマとして話し合い、検討してまいりました。しかし、さまざまな検討を進めていく中で、区民会議が主体となって場の立ち上げを目指すのではなくて、それはちょっと難しいのではないかというような意見がありました。ということで、既存の場を生かすことや、それを担ってくれる担い手の発掘の必要性が指摘されました。2つを合わせて検討していくこととしました。今後は実現に向けまして区内の具体的な現実のニーズや、担い手から起こしていこうということになりました。

それから、第5期、前期の区民会議の取り組みでありました、ほっとやすらぎステーションというものがあるんですが、これも、この内容も引き続き踏まえまして、地域で困っている人を地域福祉の制度につなぐ一環として考えていくことなども、これからちょっと検討してみようという確認をいたしました。

続きまして、第7回の会議のまとめでございます。5月1日に会議を開催いたしました。今後の進め方、取り組みの方向性として2つを決定いたしました。いろいろ会議を何回も重ねているんですが、いろいろな事例が皆さんから、委員から寄せられたり、あるいは、こんなことがいいんじゃないかというような、いろんな意見が出まして、それをなかなかまとめるのが苦心したんですが、まず1つは、認知症サポーターのフォローアップ講座の企画、開催でございます。テーマを地域みんなで支える仕組

みを考えるということにしまして、来る9月2日の土曜日の開催を目指しまして、フォローアップの講座をもう一度開催してみようというようなことで検討しております。

それから、もう1つは場の運営、世代交流の場などの事例としまして、6月の7日、水曜日に、この宮前区の土橋カフェの視察を実施いたしました。

細かくちょっと掘り下げてお話をさせていただきますが、認知症サポーターのフォローアップ講座なんですけれども、認知症に限らず、福祉に関する多機能の場として企画の検討を進めていきたいと考えています。それから、地域で困り事を抱えた人の相談を受けまして、適切な福祉の支援や場につなげる地域福祉コンシェルジュを創設して育成する案も出ました。ちょっと耳なれないといいますか、地域福祉コンシェルジュという言葉は正式にはないと思うんですが、今、コンシェルジュって何でも、何とかコンシェルジュとありますけれども、地域福祉の困っている人をつなげたり、行政と困っている人をつなげたり、あるいは、ちょっとした知識を持った人がこういった地域福祉コンシェルジュになって地域をリードしていつてもらえるような、そんな制度もあってもいいのかなというふうな案も出ました。

そのほか参加した団体同士の連携の場、活躍の場がないとか、認知症サポーターに地域福祉の活動を紹介したり、勧誘する場所など、アイデアがいろいろ出ております。アイデアはたくさん出るんですが、なかなか現実としてはまとまらないという状況なんです、これからはその辺を少し掘り下げて次回の会議にまとめていきたいと考えております。

それから、もう1つのほうの土橋カフェの視察についてですが、みんなの食堂とか居場所などの形成に関しまして話題となったのは、専門家との関係づくりということです。カフェとかサロンとか、そういうスタイルの場所にテーマを設定した介護士、あるいは介護士とか、歯医者さんですとか、弁護士さんとか、そういった専門家をお招きしてお話を伺ったり、その場で気楽な相談の場所を設けるというような事例が荻窪にあるらしいんですが、荻窪暮らしの保健室というふうなところで取り組みがあるらしいんですが、そういう紹介も委員さんからありました。

土橋カフェでも宮前区の弁護士さんが、ボランティアの弁護士さんがいて、法律相談とか、いろいろな相談をしてくれているというようなことでもあります。それで、6月7日に土橋カフェに有志の委員で視察に行ってみりました。当日はもう土橋会館が満杯になる、123名というお話でしたけれども、120名以上の方の参加がありました。私のテーブルの隣の人は横浜の人で、視察というか、こういうお話を、いいカフェがあるので視察にやっぱり来られているというような方がありましたのでね。川崎市内だけではなくて横浜市からも、こういった施設に視察に来ている状態でございます。

当日はプロのオペラ歌手のコンサートがあり、それから、この土橋地区のスポーツクラブのトレーナーによります体操とか、ちょっと頭の体操ですかね。などもありまして、私たちが参加者の方とまじって、お話をしたり体験をしたりしてまいりました。

次回の部会では、この視察の振り返りも含めまして、話題を中心に審議していきたいと考えております。

以上で地域福祉部会の報告を終わらせていただきます。

川田委員長 地域福祉部会の皆様、お疲れさまでした。

3月のフォーラムのときに認知症サポート養成講座をやろうということが最終的にまとまりまして、ただやるのではなくて、地域、企業、それから中学生たちも日中地域にいるキーパーソンとして呼び出したほうがいいんじゃないかということで行いましたよね。

認知症サポーター養成講座というのは、キャラバンメイトを中心にさまざまところで展開しておりますので、それを改めて区民会議の提案とするということではございません。この後、先ほど第7回の会議で、認知症サポーター養成講座では、先ほどの報告にもありましたが、話す機会がなかった。お互いの情報交換をしたいという要望があったので、もう1回それを行いましょ。これによりまして地域のニーズというのを私たちはちゃんと捉えていきたいと考えました。その上で出たのが地域福祉コンシェルジュの存在ですね。これはまだネーミング的なもので終わってしまっているんですけども、では、地域コーディネーターの民生委員と地域福祉コンシェルジュとはどう違うのかというのが、まだこれからの部会で話し合われます。そういうことも踏まえて何か御意見とかアドバイスなどございましたら、20分ほど時間がございしますので、どうぞ、挙手をさせていただきますして御発言ください。

どなたかいらっしゃいますか。

田辺委員 正直言って今の御説明を聞いていても、さっぱりわからないです、私。何が問題で何をどうしたいのか。例えば認知症なら認知症の方々のどの部分をどうサポートしたいのか。実例としては、もう皆さん御存知だと思いますけれども、鷺沼なんかの自治会ではこれは有名な話で、もうNHKのテレビでも何でも取り上げられていますけれども、自治会単位で見守りということをやっていますよね。ですから、そういう実例も踏まえて一体何が問題で、何をどうするのか、誰がどんな形でやるのか、そういう説明が全くないと思いますよ。今の御説明では、この辺はこれから考えられるということですか。

中里部会長 私もその指摘には非常に困ってしまうんですが、会議の中でいろんな問題、課題が出ていまして、一番最初から課題を広げ過ぎたといいますか、2つに分けたときからですけども、広げ過ぎて、いろんな課題が出てきましたね。地域を、とにか

く地域をつないで、地域の住民が住みやすくなるようにというようなことから出発したんですが、なかなか1つには絞れないというか、正直な話、そういうことはあります。ただ、いろいろ今まで1年間やってきまして、少しずつ絞られてきまして、先ほどフォーラムでやりました認知症サポーター講座というのがありますけれども、この認知症についての、ちょっと深めていこうということで、その後のフォローアップ講座を含めて、それをフォローアップするだけではなく、それを地域にちょっと、地域の、このコンシェルジュというのも含まれるんですが、そこを何とかして地域をよくしようということなんですけれども、ただ、御指摘のとおり、さっぱりわからないという。私の説明も悪いんですが、今のところそういうふうに認知症サポーターについて深めていこう、それから、カフェとか、そういうようなところでのリーダーシップ的なコンシェルジュみたいな、福祉についてつなぎ合える、つないでいける、そんな人的なものを何かできないかということで、まだ形にはなっていないんですよね。あと1年弱なんですけど、その辺で何とかまとめていきたいというのが私の思いです。

こんなところなんですけど。

砂川委員 私のところ定期的に、宮前区地域振興課まちづくり推進係のほうから、こういうのが来るわけがありますけれども、これはカフェで見えるところに置いているので、非常に皆さんがよく見るんですよ。私はいろんなことを聞かれるときもあります。

前に、たしか第5期のときに、名刺大の包括センターの電話番号の入ったものをカフェに置かせてもらったんですよ。それが今ないので、もう1回つくっていただけるのかどうか。あれは非常にやりやすかったんですよ。これを見て、きょうもちょっと認知症の始まりの方がお店に来て、結局家族の方は迷っているわけですよ。勇気を出してどこへ行けばいいかというのをね。でも、あれがあると、そっと持って行って、多分電話していると思うんですよ。だから、そういうがあると非常に家族の方も、あっ、こういうのがあるんだなということが認識できるんじゃないかなと思ひましてね。やはり自分の住む地域で元気に対話、交流ができるまちづくりというのは、ちょっとしたそういうヒントからでも、その人を救うといいますか、家族を安心させる1つの問題を、課題を一步前進させるための、解決するための1つの方法でもないかなと思ひましてね。

もしそれが復活できるのであれば、予算の関係もあるんでしょうけれども、そういうものを置いておいていただくと、非常にいろんな方、お年寄りがお見えになっておるわけですから、そこでいろんな話も、会話も進んで、明るく元気に帰られて、また友達が友達を呼んできて、そこに会話が弾みますよね。そういうのを見ていますと、やはり具体的にこういうものを作っていけば、もう実践的にこれがそのまま直結で話が通じるのではないかなということを感じております。

本当に宮前区は暗闇が多くて、危ない階段がいっぱいあります。馬絹の古墳にはすばらしい街路灯ができて、大変地域の方が喜んでおりますので、ぜひその辺も含めて御検討いただければと思います。

中村委員 私は文化協会から出ているんですけども、民生委員などをさせていただいております、認知症の件で委員さんが非常に苦勞なさっているお話は常々聞いているんです。

これとは別なんですけれども、うちの息子がいる企業へ行っているんですけども、認知症サポーター講座を受けてきまして、認知症になった人に怒ったりしたらいけないんだってなど言うから、当たり前よと言って。ですから、私は息子の言葉を考えまして、我々はもう本当に、認知症というのはみんな御存知だと思う。知らない人は今、この年齢の方々は知らない人はいないと思うんですけども、ぜひ若い方、中学生などに認知症のことをもっともっと教えて、知識を深めていってもらいたいかと思います。それによって、要するに認知症だからおかしいとか、ばかにした言葉を吐いたり、中学生なんかかたがしなようなことをしてもらいたいかと思います。

黒澤委員 田辺委員の意見に近いところの発言、意見になるんですけども、部会長の説明の中身というのは余りよく、どう言ったらいいのかな。自治会の中でカフェであるとかサロンというのは、今、宮前区の中では常識になっているところね。ですから、自治会の役員、関係者というより、大体、認知症のことを、ここに書いてある内容なんていうのは大体わかっていることね。そうすると、その中で区民会議の委員としての捉え方ね。それを今、課題というものを、どうやってこれから宮前区民会議の委員としてやっていこうかという捉え方よね。

この間、宮前市民館でもって高齢者福祉の学習会があったの。宮前区全町内自治会連合会の学習会。そこで出席されませんでしたか。28年度、昨年度調査項目というのが、もう市報に出ていますよ。そこの中の調査項目の中で我々が、この程度のことは我々は常識内よというところが大体8割ぐらいというところの調査結果ね。それは私も説明、ああ言っています。2割ぐらいがすごくわからないところというよりは、地域、医療関係、災害時の医療というのを、この高齢者のね。こういう人たちの捉え方というのかな。それが非常にわかりにくい。その調査をこれから具体的にしていかなければいけないなというふうな課題のお話があったの。その資料というのを川田委員長がお持ちですから、ぜひそれを見ておられて、私が言った2割ぐらいのところというのが、宮前区のこの自治会役員の間で余り常識的でないものをこれから詰めていこうねと。災害時の要援護者対応というところなんです。そういうところのお話があるというところを御参考にしてください。

それから、この認知症サポート養成講座的なものというのは、もう2年ぐらい前からやっておられるんです。川田委員長の稗原ゆ〜ず。いい。余り言っちゃいけない

か。そういうところでもう既にやっているような内容ですので、それを区民会議の委員として捉えるというのはどうかなという意見でございます。

川田委員長 ほかにございますか。

では、ちょっと補足させていただきますと、フォーラムが終わってからばたばたの部会ではありましたけれども、それでも日程がない中で何とかまとめなければいけない。それで、きっと田辺委員が言った、サポート養成講座とコンシェルジュとどういうつながりがあるのか、全然見えてこないよというようなことじゃないかと思うんです。サポート養成講座をやったときの、その参加者の声もくみ上げなきゃいけない。そのためには皆さん方に集まっていただいて、もう1回話し合いを持っていただく。

今までキャラバンメイトもフォローアップ講座というのをやっていないんですね。そこでちょっと区民会議、福祉部会仕様のフォローアップということで、先ほど言ったようにカフェとかサロンは、今、常識ですよとおっしゃるんですが、知識ではあっても実際やっているところはそんなに多くはないです。それもどうやったらいいかわからないという方たちもいらっしゃいますので、そういう方たちのためにも、例えば認知症、これからすごく大きな問題になりますから、そういったところでは勉強してくれた方たちが核となって、コンシェルジュ的な存在となって、カフェやサロンを開いていっていただければいいんじゃないか。

カフェ、サロンといっても今はいろいろありますけれども、統一されたものはありませんので、そのところは、例えば5期の、ほっとやすらぎステーション、あれもみんなに広めて以降、同じように広めていっていただくということだったんですけども、それがなかなかできていなかったんですが、そんな感じで同じようには、例えばカフェ、サロンには一体どういったものがあったらいいのか。そこは情報交換の場であるし、いろいろな機関が出入りしているし、そういったものが欲しいねということであれば、核になった方が、コンシェルジュがいろいろつなげていくというようなこともいいんじゃないかなという、本当にまだアバウト的な話だったんですね。

ですので、これからまた7月の部会にもう少し具体的に話しまして、9月にはフォローアップ研修をやるんですね。だから、そこでそういうような福祉部会の方たちが皆同じような考えで臨んでいって、それで、では、コンシェルジュというのはどういような役割で、こういうふうなものがいいんだよねということを出していただいて、それをとにかく検証していくというのがあります。両部会とも。ですので、それをこれからの作業でやっていくというように私は受けとめました。

田辺委員 いろいろ御説明はわかるんですけどもね。僕は一番大事なことは、まずブランドデザインが全然できていないということなんです。だから認知症の方の何をどうサポートするのかというのが、まず全然御説明が一言もない。それから、サポーターをつくるのもいいし、カフェでもいいし、コンシェルジュですか。何でもいいです

けれども、グランドデザインの中のコンシェルジュだろうがサポーターだろうが、カフェだろうが何でもいいんですけれども、自治会も含めてね、それぞれがグランドデザインの中のピースとしてどこにはまって行って、それをつくったことで実行して何がどんなふうに改善されるのか。そういうふうに物事を進めていかないと、何かばらばらばらばら、いろんなことをばっばっばっばとやって、ああ、サポートはできました、では、その人たちに何してもらおうんですか。組織化はどうするんですか。そういうことは何もやっていないんですよ。あと3カ月か4カ月しかないんですよ。間に合うんですかね。

中里部会長 田辺委員の発言は、まさにわかります。私もこの葛藤の中で、もう前に進みたいと。いろんな情報はあるわ、こういうことをしたいといういろんな意見があって、それをまとめるという中で、ただ、こういう意見があるよ、こういう意見があるよということで、それを提案できればいいんですが、そんなことではないと思っていますので、私は。1つ形として2年間の成果として自分たちで一応試行、試してみても、こんなことをやってみたけれどもどうだろうかというふうな提案をしたいと私は思っています。

ただ、私のまとめもなかなかできない。実力がなくてできない中で、自分もすごくまとめたいとか、この今のまさに田辺委員の言っていることは、私は一番やりたいことで、やらなきゃいけないことだと思っています。ただ、地域地域によってそれぞれの代表が出ていらっしゃるし、その代表というのは、やっぱり背負っているものがあつたりなんかしますし、重きに置くものとか、いろいろあると思うんですよ。その中で意見をいろいろ集約してやっていかなければならないという、もう田辺委員の言っていることは、まさにそうなので。

ただ、私、何となく見えてきたなというのは、先ほども黒澤委員のほうでカフェとかサロンとか、いろいろ、それはもう常識だよということで、各地域にあるよということで、それも私もわかっています。だから、今さらそれをやろうよというようなことは思っていないで、ただ、その辺をつなげるものがあればいいなど。カフェのリーダー的なんじゃないですけども、カフェとかサロンの中で福祉関係に詳しい人を置いて、それを福祉、地域福祉コンシェルジュと名づけたんですが、名づけてそういうものがつながって、ここのカフェではこんなことをやっているよ、ここのカフェではこんなことをやっているよというような情報を共有しながら、よりいいものができたりとか、あるいはそういう指導者的なコンシェルジュが、また新しいカフェとかサロンとかじゃない、また、地域のためになるようなことを考え出すかもしれないですね。

ですから、最初はいろんなことを考えて、場、企業のを借りて何かをやろうとか、場を考えていたんですが、場を考えていると、結局場だけでは動かないというこ

とがだんだんわかってきまして、やっぱり動かすには人だということで、今まだ議論を、始まったばかりなんですけど、人のつながりをつくって福祉をまとめていきたいなというような考えがあるので、それで認知症サポーター養成講座なんかもありますけど、それも1つの知識なんですよね。つながりでもあるし。ですから、そういうものを何かまとめて、地域で人のつながり、きっとリーダー的な人のつながりをつくっていったらなというのが1つ私の提案だったんですけど、そういうのがあるんですけど、まだ検討中です。済みません。

黒澤委員 30秒で終わります。

今の中里部会長のところは前にも活性部会で一緒に、大体考え方の方向性というのはわかっている。我々の勉強会ではないぞというところの理解はしているはずね。勉強会を1年間ぐらいで、あとレベルを皆さん早く高くして、そして企画的なことで何か宮前区の活性、あるいは福祉ということを考えていこうと、こういうことだよ。

その中で、今さっきちょっと検討してねというのは、区民会議の委員というのは何か形をあらわすと言われましたね。形でなくても提言ができるような、この課題はなかなか大変だぞというものを見つけて、そして、これを7期、8期かはわからぬけれども、そういうところの高齢福祉対応なんていうことも検討できるのではないかなというので、先ほど市民館でやったやつ、その資料を、きょう持ってきていないので、多分行政は持っていますから、ぜひ見てください。そこの何か2割ぐらい知らないところがいっぱい出てきます。そこのところを突っ込めるかどうか。そういうところを突っ込んでいただくと自治会というのは市民の、地域でしょう。そういうところの人が感心するようなチェックができると思いますよ。

老門（泰）委員 この前は土橋カフェに多数の方が御参加いただきまして、ありがとうございました。

土橋カフェを核にして、先ほど横浜の方もいらっしゃったというお話がありました。実を言うと、毎回、全国各地とはオーバーですけれども、東京とか、いろんなところから大体20名ぐらい見学者の方が見えるんですね。うちの土橋町内会では、この土橋カフェはあくまで1つの認知症に対する核として、それをもっと地域住民に広げるべく、この前も2月に宮前平中学校の3年生400人を相手にして認知症サポーター研修をやったとか、それから、今、もういろんな場面で、あしたもううちの土橋会館で認知症サポーター研修をやるんですけども、そういう意味で、区も認知症に関する地域ネットワークサービスの中でもかなり認知症にウエートを置いて、いろいろな対策を考えられているんですね。

そういう観点から言うと、黒澤委員もおっしゃっているように、私も3月に田園調布学園とか聖マリアンナ医大のフォーラムを聞きましたけれども、何かもっと、認知症はとりあえず、みんなの認識のもとに動いているから、もっと違う側面で、先ほど

医療というお話がありました。私も、例えば一般の人は、例えば倒れたら、まず救急車を呼ぶべきだと。やらないと警察ざたになるという、一般的なそういう評判になっていましてね。だから、そういう、それがまた医療費のことにつながる。だから、その辺の、本当に地域医療というか、訪問医療とか、それがもっと発展して、余り費用がかからなくて自然に生命を全うするようなシステムづくりというのが、本当はトータルとして、高齢化社会の中では求められているかなという感じがするんですね。

それから、もう1つは子ども食堂とか、いろいろ最近話題になっている、やっぱりお子さんに対する対応の仕方というか、そういうものも1つの視点として取り上げる必要があるのかなという。評論家的な意見で申しわけございませんが。ということでございます。

川田委員長 ありがとうございます。

予定の時間がちょっと過ぎております。福祉部会のほうも子どもから高齢者から、さまざまな意見が出ておりまして、2年1期ですけれども、その4分の2ぐらいじゃないか。4分の1ぐらい。本当にテーマ決めにかかってしまって、本当に皆さんでお話をするというのは本当に時間がなかったというところで報告したことでございます。まだ福祉部会のほうでも突き詰めた話はしておりませんので、今回、活性部会からいろいろな御意見をいただきましたので、それを踏まえてこれからの分科会に臨んでいただければと思っております。

御意見いただいた皆さん、ありがとうございます。

(2) 審議経過報告②みやまえ活性部会

川田委員長 それでは、続きまして、もう1つの部会ですね。地域活性部会。本来ですと佐藤部会長が報告をするところでございますが、所用がありまして、きょうどうしても出られない部会長もすごく残念がっております。かわりに影山副部会長から御報告させていただきます。

影山副委員長 ということで、佐藤部会長になりかわりまして、私がどの程度、そんなくという言葉は使うと手あかがまみれていますが、佐藤部会長から怒られるかもしれないですけれども、最初に私の一メンバーとしての気持ちも入れながら、きょうの報告にさせていただきますと思います。

お手元の資料2、みやまえ活性部会という資料がございますね。これは本当に、まず折り返しをして、3月11日から5月27日の4回ですね。ここは実は一番上の3月11日と5月27日、これはフォーラムなんです。真ん中は部会なんです。まずね。それで、実はこれがマストになるんですけれども、第1回の3月11日のフォーラム、これが大盛況だったんです。ここで私が申し上げるのはあれなんですけれども、大変な人、40名を超えるメンバーが集まりまして、もうお話をする間がなくて、実は大変、

自己紹介で終わったということで、これじゃ大変だからもう1回やりましょうというので5月27日にやったという経緯が、実はバックにございます。

では、何を話してそんなに人が来たのかということになります。それは、ここのサブタイトル、みやまえ活性部会、スモールビジネスで地域貢献とございます。この宮前区は非常にさまざまな活動団体が多いと言われていています。川崎市の中でも。ところが、その中の大半は、アルバイトだけでは、何か少し交通費ぐらいは出ないのかという意味合いで、プラスアルファぐらいは要るよねという声は実はかなりあって、それをくんで佐藤部会長が、このスモールビジネスで地域貢献というテーマに、ちょっと、これは全てじゃないですけども、例えばそういう方向に持っていったということです。

このスモールビジネスの対象者は若い奥様方です。子育てです。まさにその人たちの手の技術を生かしながら何かお手伝いできないものか。それが地域活性化にならないものか。それはビジネスじゃないよ。それは地域貢献をするということですよ。ビジネスならラージビジネスなんですよ。これはスモールにしたというのは、多分そういう意味合いです。ささやかながらそういうことです。何かこのままでは大変なんだよねということです。それがみやまえ活性部会で確認したポイントです。それでちょっと最初に申し上げておかなければならないなと思っています。

この今のみやまえ活性部会はどういうふうにしてお話をさせていただいたかということで、先ほど、ちょっと今、私が申し上げましたように、これは、まず、これは事務局のほうでこういうふうにしゅべりなさいというふうになっていますので、ちょっと申し上げますと、昨年度末の区民会議フォーラムでは地域でお友達・お仕事探しとして、地域で作品づくりや何かを教えている方々を集まっていたということなんです。これは間違いないです。そういうふうにしてたくさんの人に集まっていたきました。お友達・お仕事探しだよねということでした。それでふたをあけてみたら、すごい人が来たということで、皆さんが来たということです。

その下、次に「第1回 地域でお友達・お仕事さがし」とございますが、これをちょっと見ていただきますと、ここに写真が2つあります。左上の写真が、人がたくさん集まっています。この真ん中、右下を見ていってください。この右下の写真、これは実は手に技術を持っている方々の作品を集めたんですね。作品を。それが山のよう集まってきたんですよ。ああ、こんなにたくさんあるのかと。そこで、ここは自己紹介で終わったんですが、こんなにたくさんそれぞれ技術があるのに、何か生かせないものかという問題意識が大体出てきました。これがまず第1回でございます。

それで、次のいただいたこのアンケート結果ということで、ちょっと見ていただきますと、感想、アンケート結果から見ていただきますと、ここでどんな意見が出たかということで、ちょっとその次を見ていただきますと、趣味や仕事として何か作品づ

くりをしたり、何か教えていただいたりしている方々の意見として、さまざまな活動、作品、イベントが知れた、多様な業種の方との触れ合いが楽しい、本当にいろんな業種の方々にここでお会いできて、お話しさせていただいたという認識が生まれました。それから、意見交換、交流の時間が非常に不十分だったので、ぜひというような意見がここで出てきたんですね。だから、このままでは非常に生煮えの状態、実はこれは終わったということでございます。

いただいた意見の一部として、その下のページにございますように、こんなものが欲しいということでは情報交換、共有、発信の場の設置、借りられるスペースの情報共有、この辺が実は、こういうことをこういうふうにして、スモールビジネスで地域貢献はいいとして、それをどこでやるんかいねと。誰とどんな場所でやるのかいねというところが、もうちらほらと出てくる。つまり、借りられるスペースが要るよねと。

これは実は今、公園で動いています。実際の公園でね。道路公園センターさんの管理されている公園、それから、半ば公的に施設の一部でもあればやられています。そうした借りられるスペースがございます。ところが、この中で、ちょっとおもしろかったのは、メンバーの方で民の、民間の会社の一部をアプローチして、そこで借りられないものかということで、鷺沼の駅前で一生懸命動いた人がいる。それは1年か2年ぐらいかけて動いたという話が、実はこの第1回の会議で出たんですよ。そんなに苦労してやったのかと。その方の話が非常にひとつインパクトが強かったんですね。

実際、今、動きますと、それをマルシェということで、きのうかな。きのうだと思えますけれども、これはやったんですね。実は、きのう私もちょっと行ったんですけども、そんなに多くはなかったんですが、そんなことで時代はすごく大きく、自分たちが活性化したいとなってくると、何か地域でお役に立つことを、若いママさん方はもう動き出しているということなんですね。それで場所が欲しいというのが声が聞こえてきて、何とか場所が鷺沼の駅前の一部として出てきたというところで、大体第1回の説明とか話は終わったということでございます。

それから、その次のあれを見ますと、フェイスブックで情報交換、これはフェイスブックでどんどんやって、お互いに引き続き、私はあそこの店で何をやるよとか、何をやるかというのは、要するに、個人対個人の、パーソン対パーソンでやっていくということの意見として出ました。

作品プラス子育て世代の応援、こういうような、このところもまたポイントとしてありますよね。自分がつくったものをオンリーワン、世界に1つしかないものを、この赤ちゃんに私がプレゼントするよというような世界なんですよ。それは決してどこでも売っているようなものじゃないということで、そういうことでお手伝いしたいと。100円プラスアルファぐらいでいただければ、素材費プラスアルファぐらいでい

ただければということでございました。それは第1回のフォーラムを受けた結論。

さて、その次に、第6回会議のまとめということで、ちょっとありますけれども、これで、さて、これから第2回目のフォーラムをもう1回やりましょうということを考えてみました。第2回目をね。そうすると、第2回目は第1回目と同じじゃだめだろうからということで、もちろん第1回の方に御案内も差し上げました。そして、差し上げた中に都合の悪い方もいらっしやっただけども、新たに出られた方もいらっしやっただけかな。私はその辺は確認していませんけれども。そういうことで、第2回はまた今度は少し絞られたというか、関心が高い方が来られました。

そこで、関心の高い方に対しては、我々としてはテーマを絞りました。1つの仮説としてね。ちょっと見ていただきたいと思えますけれども、これは2つ3つございませぬ。1つは、お友達・お仕事づくりの理想の場とは何かいなということで、ちょっと次をまためくってもらえばいいと思えますけれども、こうしてお友達・お仕事づくり、つまり仲間が欲しい人たちは、どうやれば、どういう理想の場があるのかねということが1つございました。これをテーマにしました。

2つ目です。それから、具体的に、つまり、これだけ手に技術を持っている人たちは、クラフツ市ではないですけども、今、何とかの日とか、いろいろございませぬ。民間でもありますし、それから、行政のほうでもいろいろ提案されているのがございませぬ。そうした、虫歯予防デーではないですけども、例えば何とかの日という、その日を1つ設けてもいいんじゃないかという柱を、我々は今回、もう残り時間がないですから、今年度の1つの方向として、1つはクラフト市のようなところを、何とかの日を設けて、そこでみんなが集まる日を設けたらどうか。もちろん宮前の今の祭りにそれを合流してもいいと思えますよ。ですけども、そういう発表でみんなが一生懸命になって、そこでみんなが集まる。今、私もこのマルシェというのはすごい動きになって、川崎のほうの南部でも、6月の頭でしたっけね。やりました。数万人集まるんですよ、もう。人がね。そういう時代になっています。若いママさんたちが。

つまり、だから、そういうようなものをこの宮前でやったらどうかというのは1つありまして、それをまずクラフト市の提案です。いつ、どこで、誰が、どういう形でやるかということが、だから今後は1つの、やるとすればそういう方向です。

2つ目として、具体的な取り組みの検討というのは、SHOP IN SHOP、これは言葉としてはなじんでいないと思えますが、端的に申し上げますと、今、非常に物が売れなくて困っているし、そこに一方では売る場所が欲しいという人がいます。そうすると、その両方をつなぎ合わせて、いわば軒下で、軒下じゃなくてもいいんですけども、店の中に入ってもいいんですけども、そこで、例えば全然違うようなものを、お人形でも、ケーキでも、かわいい小物、おしゃれなものでもどうか

などというようなこと。私の場所を提供しますよという人、手を挙げてというので、まず1つです。それから、私はそこに売りたいよという人も手を挙げてというのが2つ目です。この場所を提供しますよという人と売りたいよという人をマッチングすることなんですね。ビジネスとして待っているのは。つまり、そういうような方向。実はこれはもうあります。SHOP IN SHOPでネットで見てもらえばあります。その宮前版でもう少しエリアを絞ったようなものがあれば、ちょっとおしゃれなものであるのかなということでございます。

このようなテーマをフォーラムでやったんですよ。そうしたら、皆さん御存知だと思わすけれども、個人名、具体的な大きな会社の名前を言っはあれなんだけれども、スポーツジムの、宮前の郵便局の隣にある……。ビジネスのことを言っちゃっていいのかわからないけれども。つまり、その方が、うちなんかでもいいよと。うちなんかの場所を提供してもいいよという話が実は出たんですよ。それが将来大きな1つの話かな。やっぱりあいているスペースに、そこに入って、入ってというか、提供して、うちもウイン・ウインになる。お互いにウイン・ウインになろうよというような世界が実は見えてきました。それがSHOP IN SHOPの1つの提案です。

それから、もう1つ、実は、きのう私は商工会議所の市の方の方にちょっといろいろお話をしたりして、マルシェに行ったんですが、そうしたら、時間はかかるけれども、今の商店街は大変な状況なので、あいているあのお店で、あいていると言うと失礼だけれども、そうじゃなくて、その場所の一角でもね。まあ、お借りできたり、そして、お店を開くのは五、六万から10万かかるんですよ。月ね。だけれども、ちょっとだったら1000円か2000円ぐらい、半日だったらそれで場所代を払えば、どうぞ使ってくださいという世界が今、始まっていますから、そういうことを、もう有馬のある一お店ではやっています。やっています。これは間違いありません。私はそれを確認しました。ですから、そのようなことを商店街も、いわばウイン・ウインの関係になるようなものを提案したらどうかなということでございます。

以上、今私がちょっと申し上げましたのは、今回、佐藤部会長にかわりまして影山のほうで申し上げましたが、そのようなことを1つの行き方の今後の方向として提案させてもらったらどうかなと。残りあと、3月ぐらいまでですので、そこに向かって、もちろんそれ以外の案もいいと思います。一応私どもとしてはそういうスモールビジネスというんですかね。そうしたものに当たっての具体的な着地点をどこに置くのかなということ、ちょっと今、検討している最中でございます。何かまたありましたら御指導、御鞭撻のほうをお願いしたいと思います。

川田委員長 御苦労さまでした。

ちょっと補足をいたしますと、3月11日のフォーラムのときに集まってくださった

方は同じ地域の方が3名おりまして、本当にお仕事になればうれしいんだけど、やっぱり地域貢献をしたいという若い方たちがおりました。今言ったマルシェとか、クラフト市とか、情報交換をしながら、だったらそこに出させてくださいというようなことをやっていたんですが、その方たちが言うには、そういうところにも行くんだけど、できたら地域でやりたいんだと、地域貢献をしたいんだということをおっしゃっておいりましたので、そちらの地域のほうにつなげました。それが3月のことでしたが、今月、6月に、その地域の公園でクラフト市を地域のバックアップで行うことになりました。そういう面で地域と一緒にすることで、1年待たなくても早くクラフト市が出来ました。地域の協力によって若い人たちの受け皿となる地域の居場所ができるんだなということを思いました。

それでは、今、影山副委員長から報告していただきましたが、それについて何か御意見、アドバイスがございましたら挙手でお願いいたします。

中村委員 私は、毎年宮崎台の桜祭りにアレンジメントを、ことしは71個出させていただいて完売したんですけども、実は、桜祭りも非常にお天気と関係がしますので、何となくどしゃ降りだったら、つくったものが全部だめになっちゃうということで、いつもいつも冷や冷やししながら毎年出させてもらっているんですけども、おかげさまで私の場合は9時過ぎから12時前には完売するんですね。そこで、今お話を聞いておりまして、クラフト通りに前はもっともっと手づくりのコーナーが大勢いたんですけども、このところ少なくて9組ぐらいなんです。ただ、出店料が3000円、初めは1000円、2000円、3000円になって、今回なども机を借りたら500円とか、だんだんだんだん借りるものに対して値段がついてきているので、そういう点で皆さんが参加してくださらないのか、あるいは、天候との賭けですので、雨が降ったらつくったものが全部だめになっちゃうので、私の場合はいろいろ民生委員をしていますので、いろいろな児童相談所とか、そういうところに配ったらいいかなと思ってやらせてもらっているんですけども、安く売れば本当によく売れますので、もう少し桜祭りを何か引き入れて、今のお話を聞きますと、例えばあそこはお店というのは余りございませんけれども、例えば、せたしんとかの店舗を借りて、飾る場所と売る場所とか、もう少し考えたら、桜祭りも手づくりのクラフト通りがもっと目立ってくるんじゃないかなと思いました。

川田委員長 ありがとうございます。

区民会議としては、どのような形でどういうふうに区に広げていていただきたいということを提案いたしますので、そこから、では、どこに出そうかという話になっていくと思います。

砂川委員 お友達・お仕事づくりの理想の場とはということで、責任を持ってかかわってくれるスタッフの知り合い、そういった仕組みが重要になっているんですけども、

これは具体的に何かやっていたらいいわけですか。こういうやり方をすればいいんじゃないとか、そういう話が出るんですか。我々のヒントとして、では、聞いて、そういうやり方をやれば自分にもできるんだなという考え方になると思うんですけれども。

影山副委員長 おっしゃっている意味は、自分にできるというのは技術の問題ですか。それとも販売の方法。どちら。

砂川委員 いや、だから、どっちでもいいんですよ。理想の職場とはどういうことなんですか。

影山副委員長 えっ。

砂川委員 理想の職場ってどういうことなんですか。

影山副委員長 どういう方向ね。どういう方向へ持っていくかということ。

砂川委員 どっちでもいいですよ、わかりやすく言ってくれば。

影山副委員長 今、一番最初に申し上げましたけれども、今、若いお母様方が子育てで非常に孤独にさいなまれ、そういう状況と、それから、技術的な問題で、自分がもう折り紙とかをつくったり、いろいろなものをやったりしていて、憂さ晴らしも含めて。そういう状況がまずあるということ。で、もう一方では、施設とか販売の場と言われているところが十分に機能していないということですね。これが前提にあります。それが前提です。

そこで、おかしいじゃないかと。つまり、では、実際に物を売るべきところの場所はクモの巣が張っているわけではないけれども、お客さんが来ていませんし、動いていませんよね。これはなぜかということ、お店の売る場合の、これはそれぞれ方法があるからでございましてけれども、私が見るところによりますと、やっぱり今、非常に郊外、アウトレットモールとか、そちらのほうへ本当の物が行ったりして、本当にうちは来てくれないじゃないかとかいうようなことを言う人もいるし、それとも売る意欲がもうどうかと。つまり、もう後継者問題も含めて非常に我々、我々というか、二、三十年前に、あの輝いていたお店とは全然違うさまが今出てきているということですよ。これは皆さん御存知だと思います。

大変だと思うのは、これは私もびっくりしたんですけれども、2年ぐらい前に校長先生をやめられた方が、これではということで、ちょっと今、子どもたちに地域の一日店長をやらせて、それはパンフレットでつくっていますよね。皆さんそれは御存知の方はいらっしゃるかね。つまり、そのように、地域そのものは次世代の子どもたちから非常に遊離しちゃっている。行ったことがないよ、あのお店にはと。車でさっさと行って、お父さんとお母さんだけ帰ってくる。これで次の我々の後ろから来る地域というのは活性化するのかいなというのが、私自身の問題意識です。つまり販売の場がね。それはそれでもういいといえればいいんでしょうけれども。

したがって、そういう場の一部でも両方マッチングするというか、両方のニーズを見て、両方にいい日にはそこで自分のつくったケーキでもちょっと売ってみてもどうかと。実は、これは私も実際に鎌倉のお店の人が、鎌倉の主婦の方が、おもしろいところだからと言って、こちらの有馬のほうで売っていたんですよ。お店でね。私も本当にびっくりしました。普通の顔をして、普通の主婦が売っています。そこに高級家具だけども、そこに人が来ているわけですよ。今まで高級家具というと人が来ませんよね。ママさんが。子育てママさんが。五、六人ぐらい、わあっと来て、輪ができていますよね。ああ、これはおもしろいなと思って。

つまり、もうお店は何屋さんだから来るというんじゃなくて、そこが交流する多世代で非常にダイバーシティになっているんですね。それを求めている人たちがいるということが、私は今回のSHOP IN SHOPとか、今あるように小さなスモールビジネスで地域貢献ということの1つかなと思います。

したがって、その条件を私どもの区民会議でバリアになっているところを少し、バリアになっているところは実際にはないかもしれない。もう実際に動いてありますから。それを応援するなら何月何日に、パンフレットでもチラシでもフェイスブックでも、そういうところで統一的に、Aさんのお店ではBというおもしろい人が来て、そこで何かやりますよみたいなものが出たりすればね。その政策的な支援、パンフレットとかチラシとか、そうしたものを少しでも支援、サポートすれば1つの方法かなと。例えばそんなような。

どうですかね。答えになりましたかね。

川田委員長 ちょっと補足させていただきますと、よく皆さん、耳にすと思うんですが、若い人たち、もっと出てきてよ、地域のほうに出てきてよという話を聞くと思うんですね。若い力というのはなかなか得られないというのが、すごく皆さん認識されていると思うんですけれども、それでは若い人たちをどういうふうに地域、こちらのほうに向いてもらうかという、その方たちの活動の場をつくらなければいけないわけですね。だけれども、若い人たちといっても、小さいお子さんがいる方というのは仕事ができなくて自宅にいる。お好きな人はいろんな小物づくりとか、そういうものをやっちらっしゃる。でも、そういう若い方たちって、ただボランティアをなささいといっても、もう無償のボランティアじゃないよね。ある程度利益のある有償ボランティア的なもので集めなければ、集まってこないんじゃないか。皆さんの持っている技術などを使って、それでお仕事になれば、そして、同じようなことを思っちらっしゃる方たちがいたら、知り合うことでいろんな情報交換ができる。では、そういう場を設定しましょうということで、フォーラムのときに設定したわけです。

ものづくりをやっているというのは、すごく個人的というか、小さいグループが多いと思うのですが、そうするとバックアップがない。それから、役所となかなかつな

がないという、そういったことも耳にします。それでは、そういう方たちが本当に横のつながりを持てるような仕組みができるといいねというのが根底にあります。

ほかに何か御意見がある方はいらっしゃいますか。大丈夫ですか。御質問とかございましたか。

まだ両部会ともこれから詰めていくところです。今やっと今まで本当にわけがわからなく日ばかり過ぎていきました。というのは、いろんな団体から出てきて、それぞれの思いがあります。ただ、その思いを本当につぶしたくないといった気持ちで区民会議というのは成り立ってきておりましたので、そちらのほうにすごい時間をとられてきて、今やっと皆さん方の頭には漠然とですけども、形ができつつあるのではないかなと思っております。ですので、これから、7月からのまた部会で、それをより形にしていればなと思っております。

中里部会長 今回のビジネスの活性部会の皆さんの中で、ものづくりをしているというのは個人もあるでしょうし、グループもあると思うんですね。この間、第2回の地域お友達・お仕事探しというのをやられましたよね。その中で子育てグループというか、女性のグループだったかな。地域に根差しているようなグループの方がいて、あっ、こういうグループの中で、例えば責任者とか、あるいは地域福祉に興味のある方に、地域福祉コンシェルジュみたいな、名称は別としまして、そういうものに、なってもらうというんじゃないんですけれども、教育みたいなもの、講座みたいのものを受けてもらって、お仕事をしている若い人たちもつなげていけるようなのがいいななんて、この間のお話で思ったので、もし何かそういうつながりがあれば、何か教えていただいて、つなげていただきたいなと思うんですけれども。

川田委員長 ありがとうございます。

ほかに何か御意見ございますか。アドバイスなどをいただくとありがたいと思うんですけれども、それぞれ違う部会で見えてくるものがあると思いますので。まだ少々、5分ほどお時間があります。

大丈夫ですか。きょうお話ししていない方たち。若い方でいかがですか。滝本委員、いかがですか。

滝本委員 私たちも宮前区のお母さんというのは、子育て、最近共働きの家もふえて、保育所に預けよう、幼稚園どこにしようという悩みもある一方、自主保育や子育て広場を開催しているお母さんたちは、赤ちゃんを抱えながらとか、きょうだいをお三人、四人連れながらも会議室の片隅にマットを敷いて、それでスモールビジネスの相談をしたりとか、助け合ったりしているという姿をすごく見ているんですね。なので、実はそういう人たちがいるということが、本当に家でお年寄りがいて大変だなとか、子育てで悩んでいるなという、ビジネスを持っていないお母さんたちにとっても、小さなものを100円、200円で買いに行くことによって、子育てしながら頑張っているお母さん

と会話したり、何に困っているかというのを本当に地元の、この病院に行きたいんだとか、うちの子困っているんだけども、この本をこんなに安くリサイクルでもらえてうれしいとか、あとは、その子を学校の図書館で図書ボランティアのお母さんが、そうしたら、小学校に上がったとき私が見ておいてあげるわよみたいな、そういう信頼関係が生まれているということは地域だからできることなんですよ。

働きに行ったら、せっかくここにいいお母さんがいるのに、よその町で働いているときに、近所の子とのつながりがわからないけれども、ぜひ宮前区の中でスモールビジネスや小さな市場、マルシェがあることによって、あそこの家族はこんな感じなんだとか、何となくそういう、人を見られるというのかな。助けたり助け合ったりするという関係をあつたかくしていけるというのを、そういうふうに、区民会議からもそういう空気が宮前区の中にあるんだよということをアピールポイントとして、多分そう思っている人が、認知症だろうとビジネスだろうと、基本は顔見知りの頻度を上げる、あとは信頼関係を高めていくというふうなことにしてほしいんですね。

あと、なぜ区民会議かということ、役所との関係がしっかりしているということは信頼を得やすいんですよ。市民活動の中でも。個人でやっている、どうしてもこれは怪しいんじゃないかしらとか、巻き込まれたら大変だわとか、そういうのがあるけれども、実はちゃんと安心した人がいて、学校の知り合いよとか、リアルな知り合いでいられるということ、私は宮前区で10年子育てをしていたときに、そういう本当の関係とか、地元の公園で出会った人たちに助けられていることが多いので、そういうのをどんどん、会議の中のアイデアの形として区民会議印がついていると、やりやすいんじゃないかなと思います。

川田委員長 ありがとうございます。

非常に参考になる意見を聞かせていただきました。ありがとうございます。

よく役所のほうから区民のほうに、やらされ感がすごくあるというのを聞くんですね。それは自分たちの問題なのに自分たちが動かない、自分たちが発言しない、だからやらされ感が多んじゃないかなというふうに思うんですね。そういう面では、この区民会議で本当に区民の声をちゃんと拾っていただける提案をして、それを区役所の方が形にしてくださるということでは、区民会議の存在というのは、私たちにとってはずごくありがたく利用すべきものだと思っております。

本当にありがとうございます。とてもいい意見でした。

(3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換

川田委員長 それでは、ちょうどお時間になりましたので、本日、参与の方たちにも御参加いただいております。お1人ずつ、きょうの心境を御意見いただければと思います。

まず、織田参与からよろしくお願ひいたします。

織田参与 どうもありがとうございました。

いろいろ参考にさせていただくお話もいただいて、また、自分自身、議会活動に反映してまいりたいなと思っています。

1つ共通した課題かなと思ったのが、活動する場の確保ということなんだろうと思うんですね。これについては、区民会議ということの立場もあったんだけど、やはりそこはもう少し、私は行政がもう少し力をかけてあげてもいいのかなと。そんなような気は正直しました。

これは我田引水の議論で恐縮ですけども、御案内のとおり、今、鷺沼の駅前の再開発という議論もあって、それはもう、とにかく地域の活性化ということとの1つの大きなテーマになりますので、そういうところの施設整備の中にぜひ、区民会議の皆さんから、また区に積極的に言っていただくとか、そういうことも1つ大事なのかなというふうに、ちょっと思いました。

それから、あと、もう1つ、認知症の問題も本当にこれは大変御努力をいただいて、特に土橋カフェの場合は、もう本当に草分け的な認知症カフェとして本当に運営していただいていることに改めて御礼、感謝申し上げたいと思っているんですけども、認知症のまさに啓蒙、啓発からスタートをしていただいて、それについては一定周知もされちゃうんじゃないかというような御意見もありましたけれども、それはそれでしっかり進めていただくということは、やっぱり大事だろうと。これは私ども議会も含めてですけども。

あと、もう1つは、これは議会のほうでも今、いろいろさせていただいているんですが、やはり具体的なケーススタディー、本当に困っている方たちがおられて、そういう方たちが土橋カフェを利用していただいてもいいし、また、区役所を利用していただいてもいいんだけど、どういう形で具体的な家族の負担が減る、いろんなサービスにつながると。端的に言えば最初、きちっとした医療につながると。そんなことも含めて幾つかケーススタディーを模索される時期なんだろうと。また、そういうことによって、また違った課題も見えてくるのかなというふうな思いもしているんですが、その中で、実は、初期集中医療チームといいまして、要はチームで認知症もしくは認知症とおぼしき方を発見して、早期発見、早期対応というようなことの動き出しがあったんですが、残念ながら、幸区が去年始まって、ことしが実は麻生区と高津区からモデルということで、宮前区は入らなかったんですね。僕らは議会できっと宮前もやってくれ、やってくれということをお願いしたんですが、ちょっと宮前区は漏れちゃって、土橋カフェとか、あと、川田委員長がやられているところとかがあるからね。そういう意味で、ぜひそこで具体的にできないのかという議論をやったんですが、残念ながら漏れちゃいました。

ですから、ぜひ具体的なケーススタディーをつくっていくと。その蓄積をやっていくと大きいのかなと。やっぱり地域差があります。地域特性がありますしね。だから、そういう意味でいくと、宮前区には宮前区に合ったモデルをつくっていくと。そういうことの中で、また具体的な課題が見えてくるのかなと。そんな気がいたしました。

長くなりまして恐縮です。

川田委員長 ありがとうございます。宮前区は漏れてしまったんですが、これは逆に、宮前区は非常に評価があったのではないかというふうに捉えたいと思っております。

それでは、次にお見えになった矢沢参与、お願いします。

矢沢参与 冒頭、おくれて参加してしまいましたことをお詫びを申し上げさせていただきます。

きょうちょっと途中から聞かせていただいたんですけども、非常に毎回毎回皆様が真剣に夜遅く集まっていたいて、長時間議論をしていただいている姿というものが、我々議員にとってもすばらしい意見がいつも出ていて参考になる次第でございます。きょうは本当にありがとうございます。

私も話を聞いていて思ったところがございます。最近、子ども食堂というのが宮前区でもスタートしました。もうこの中にも何人か行った方もいらっしゃるかと思うんですけども、非常にイメージしていた子ども食堂というのが、正直私も今回初めて行って、どうしても子どもの貧困というワードにひもづいて子ども食堂というものがあるというイメージが先行してしまっている中で行ったわけなんですけれども、実際行ってみると、やはり全然そんなことはなくて、普通の家庭の方々が本当に多くのボランティアの方々に支えられて、楽しく食堂を利用されている姿を見て、大人も普通に200円で食べられてという形ですけども、非常にいい雰囲気の中で子ども食堂を利用されていたんですね。

その風景を見ていてすばらしいなと思った一方、食事をした後に真っすぐ帰っちゃうんですね。それが非常にもったいない。子どもを連れて親御さんたちが子ども食堂を利用して、非常にいい雰囲気ですべているのに、終わった後にどうしてもその後につながらない。いろんな見知らない家庭の方々が来ているんだけど、そこで何かその後につながるようなオープンスペースがあったりとか、その後に子どもの悩みなんかを、先ほど滝本委員も話されていましたが、お母さん同士につながるような時間があってもいいのかな。今はちょっと子ども食堂の例で言いましたけれども、何かの取り組みを、施策を展開したときに、その後が肝心なのかなというふうなことを私はそのときに感じました。

スモールビジネスという観点は、先ほど川田委員長がまとめられたとおり、最近の方々というのは、なかなか無償ボランティアということに対して、何か地域で貢献は

したいんだけど、そこに利益がついてこないところというのは正直あるのかなという事は感じます。そういった中の観点として、スモールビジネスというものはすばらしいなと思います。ただ、そこでもう1つ加えなきゃいけないのが、どうやってその中で地域とつながれるか。先ほど委員の方々がおっしゃっていましたが、そういったことが私も大切だと思います。それがなくなかなか大きな利益を求められるようなものは、そもそもないわけですから、やはり一番大きな価値というか、利益というものは、地域の中で顔見知りができてつながるといことだと思いますので、そういった観点でこれからも議論を進めていただくと非常にすばらしいのかなと思いました。

きょうはありがとうございました。

川田委員長 どうもありがとうございました。

民生委員さんなんかやっている食事会のようなイメージですかね。食事も食べる、それから、そこで遊びもあるという、そんな感じなんですかね。ありがとうございました。

お待たせいたしました。持田参与、よろしく願いいたします。

持田参与 どうも済みません。私も大変おくれて来て、中身もわからないで、こうしてマイクを手にさせていただいておりますが、いつも皆様方が本当に夜遅くにお疲れのところお集まりいただいて、宮前区のことを考えながら、また、宮前区の今の現状を分析されながら、将来に向けてこういうことをということで御提案いただいております。私自身も議会活動、あるいは地域の活動を通じて、このような席が非常にプラスになっております。また、議会に行っても、それぞれ議員同士で話し合うこともありますし、あるいはまた、皆さんのお声を議会の中で反映が少しでもできれば、こういうきっかけにさせていただいていますことをお礼申し上げたいと思います。

地域の中でいろいろな活動がございますけれども、先ほど来、そのきっかけとなるのがどういう場面であるのかなというのが、皆さん最初の御議論であるのかなと思います。きょう黒澤委員がお越しになられておりますけれども、平瀬川の流域まちづくり協議会の活動、平瀬川を少しでもきれいにしていこうということで続けられておりますけれども、あの活動も、やはり環境問題というのは人が加害者であり、人が被害者であるんですね。ですけれども、その取り組みの発端というのは、やはり大変なことであったと思います。川をきれいにしていこうということから始まったことかと思っておりますけれども、今、それぞれの自治会が、あるいはまた学校が、小学校、中学校、ここが参加されてというところで、私は世代を超えてという部分がしっかりと培われているのかな、やがて小学生が小学生のままではおりません。中学生にも高校生にも大人にもなっていきます。ですから、環境問題でもあのような活動をされているときに、県下を見てもみると、10年ぐらいすると、あのような活動がだんだん停滞してい

ってしまう。それは同じ世代でやっているからそうになってしまう。

ですけれども、平瀬川の問題、あの流域まちづくり協議会はそうでなくて、自治会が入り、世代も超えて、そして小学生、中学生も入りということで、各世代が上手に入っているんですね。それで小学生、中学生が入るような段階で、何か小学生、中学生に活動の体験の話をしていただくというのが、七夕のときであろうと思います。ですから、そういう場面もしっかりおつくりをいただいている。ですから、あのような活動がずっと二十数年、今でも活発に動かれています。そして、総務省、環境省、あるいは県から表彰をたくさんいただいたというゆえんであるのかなと思っております。でも、きっかけは、先ほどお話がございました、1人の方々がやっていた、あるいは個人がやっていると、なかなかそこへは入りづらいね、あるいは、いろいろなことがあるのではないかという懸念が出てしまう。そこで区民の区民会議という、しっかりしたバッヂがあると、そういうことが自然と入りやすくなるということかなと思っておりますけれども、私は行って、いろいろな関連の中で、県下の中で、こんなことがございました。

それは、皆さん御案内のように街路樹がございますね。街路樹。街路樹って毎年毎年剪定しなくてはいけないんですね。市あるいは県は入札ということで街路樹剪定をやっております。でも、その剪定を受注した方々というのは、いろいろな団体、企業の方々、あるいは事業者の方々がいらっしゃいます。建設関係の方も入札でそれを落とすことができます。ですけれども、実際、作業となると建設関係の方がいいのか、造園、植木に非常になれている方がいいのか。これはもう一目瞭然、それは植木になれた方がやっていただくのがいいわけですので、剪定しても小枝の美しいものは小枝の美しく、そして雄々しい木は剪定しても雄々しくというのが、これは一番ベターなことであります。

それで街路樹剪定士という免許を取っていただくということで、造園業協会のほうでそういうものができました。神奈川県、県内でも事業者の方で1000人くらい今それを取っております。そういうことを私どもはお聞きしましたもので、これはそういう資格のある方に街路樹剪定をやっていただくということで、平成17年でありますけれども、私たち議員サイドからそういうことを提案いたしまして、当初は県の行政はモデル地区ということで、そういうことを始められました。ですけれども、今はモデル地区じゃなくて、その資格のある人をしっかりと入札の関係者に入ってもらおうということで、そういう人がいる事業所に入札をしていただくというのが二十数路線、今できてまいりました。実際そういう形でやっております。

それでは、入札の単価はどうなの、高いの、安いの、入札ですから同じですね。技術がある人、ない人がやっても同じ単価なんです。それならば技術のある人にやっていただいて、でき上がったものが県民の方々のためになればと、こういうことで、ず

っとしていただいておりますが、そこが一定あるんですけれども、それから継続で関連することでありましてけれども、今度ではでき上がった街路樹を写真に皆さん撮りませんかということで、フォトコンテストがそこから生まれ出てきて、もうそれが10回ぐらい今、続いていますか。ですから、1つのことをきっかけにして、いろいろなところに波及をするということも連続的にアイデアとして出てくるかなど。そのきっかけがいかに行けるかということが私は大事だなと思っております。

長くなってしまいましたけれども、1事例、御紹介させていただきながらと思います。大変御苦労さまでございます。

川田委員長 ありがとうございます。

資格ということでしたら、地域福祉コンシェルジュもそのような感じになっていくといいですね。大変いい御意見を伺ったと思います。ありがとうございます。

それでは、まだ事務局にお戻しするには少し時間がございますので、宮前区恒例の事務局側の何か御見解がそれぞれございましたら、本日ただ座っているだけではなくて、一言言って帰っていただきたいと思っておりますので、いかがでしょうか。

後ろのほうから、保健福祉センターの福祉部長からいかがでございましょうか。きょうのこの審議の様子、何か見解がございましたらお願いします。

保健福祉センター副所長 保健福祉センター副所長の高階と申します。私は4月から来たばかりなんですけれども、本日参加させていただきまして、皆様の活発な御議論を聞かせていただきまして、ありがとうございました。

私は、先ほどの御意見の中で災害時の要援護者というキーワードがございましたので、その辺、今年度につきましては川崎市も含めて、私どもも要援護者の皆様の避難ですとか防災の関係について、きちっと取り組みをさせていただきたいと思っております。

実際に11月に予定されている犬蔵中学校での防災訓練につきましても、災害時要援護者の方の福祉避難所の避難の方法ですとか、今、庁内で検討しておりまして、福祉避難所となる二次避難施設にもお声がけさせていただいて、協力を得ているところまで行っています。たたき台等ができましたら、皆様に御提案させていただきまして、ことしは課題を抽出させていただいて、来年以降、そういうものが皆様の訓練の中でブラッシュアップできればと思っております。

川田委員長 ありがとうございます。

やっとなら福祉避難所のことが進んでいきますね。なかなかこれは進んでいかなかったもので、どうしたものかなんていうふうに思っていましたけれども、よろしく願いいたします。

続きまして、道路公園センター所長、小林さんからお願いします。

道路公園センター所長 活性部会のほうで情報交換の、あるいは共有発信の場の設置と

いう中で、公園のお話の一部お話が出たところですが、今後また公園の活用ということで御検討されることがありましたら、道路公園センターのほうに御相談いただければと思います。そういうことでよろしく願いいたします。

川田委員長 ありがとうございます。

公園の中でもまだ水道がなかったりする公園があったりしますので、ぜひそういった整備もできたらと思います。

続きまして、総務課長の安藤さんですかね。

総務課長 総務課長の安藤と申します。よろしく願いいたします。私もこの4月1日から宮前区役所に着任いたしました。

6年前に高津区の地域振興課長もやっております、その前は多摩区の企画課長でもありました。区民会議に久々に出たんですが、その当時のことを非常に思い出して、皆さんやっぱり活発に御議論することと、それから、内容が1つ1つ、先ほどの地域福祉コンシェルジュのお話だとか、クラフト市とか、非常にアイデアがたくさんあって刺激を受けました。やはり皆さんのいろいろ考えていることで、行政としてどういうことができるのかなとか思いながら考えていたんですが、何せいろいろお話を聞くことによって、まず第一に刺激になったということで、あしたから頑張っていきたいと思います。

川田委員長 ありがとうございます。

よかったです。区民と区役所が一体にならないとなかなかうまくいかないものですので、よろしく願いいたします。

生涯学習支援課長の吉越さん、お願いします。

生涯学習支援課長 生涯学習支援課長で宮前市民館長の吉越でございます。よろしく願いいたします。

私は、先ほど矢沢参与から御紹介いただきました子ども食堂について、アリーノ子ども食堂というのですが、東有馬にございます有馬・野川生涯学習支援施設、こちらは現在、指定管理者が事業運営をされており、宮前市民館で所管するということで、子ども食堂の件について少しだけ御紹介させていただきたいと思います。

こちらは昨年度からいろいろ準備をしてまいり、5月に初めて第1回を行いまして、実は月に2回のペースでやりましょうということで、5月に2回行い、それから、6月は、昨日3回が何とか終了したという状況です。

その中で、当初は、まずはそういったものを作って、地域の人たちが来てくれるのか。それから、こういったものをやるに当たっては、例えば調理をしてくれる人、配膳をしてくれる人、受付をしてくれる人、いろいろな宣伝をしてくれる人、いろんな方のボランティアといいますか、そういった御協力が必要なんですけれども、非常にアリーノの館長も心配をしておりました。どうなるかということで、ふたをあけてみ

ましたところ、これはやはり宮前区の特徴といったもの、あるいは有馬・野川地区の特徴といったところがあるのかもしれませんが、ボランティアの方も現在28の方が、しかも団体でというのではなくて、それぞれ地域の個人の方が、皆さんおいでいただいて集まって、調理とか、そういったものに携わっていただいている。それからあとは、おいでいただく方も当初は20人くらいの定員でというふうにやっていたのですけれども、もう、第1回目から30人くらいの方が、親子連れが中心ですけれども、来たいということで、それであれば施設が一応30人くらいは何とか収容できて、あるいは調理もできるかなということで、2回目、3回目もほぼもう30人くらい毎回予約をいただいている。

そんな状況で、これもいろいろな方の御協力があっでできているのかなといったところで、ここはただ食べに来て帰るというのではなくて、先ほど参加からもいろいろ今後の課題といったお話がございましたが、その辺のいろいろな工夫、さらにクリアしなければいけない課題等もたくさんあると思います。

実は食事の後に、これもボランティアの方なのですけれども、例えばこま回しの遊びですとか、剣玉ですとか、バルーンアートと言われる風船でいろいろな形のものをつくる、そういった遊びのボランティアの方なんかも協力していただいて、小さなお子さんに遊びを教えたりとか、あるいは待ち時間に一緒に遊んでくれるなど、いろいろな工夫をしながらやっではいるところですよ。立ち上がったばかりで、ボランティアの皆さんを初め、一生懸命やっておりますので、ぜひ長い目で見守りをいただければなと思っております。また何か、この辺の報告をさせていただける機会があればと思っております。

川田委員長 ありがとうございます。

区民会議のほうも居場所という、居場所というか、場所ですね。場所について非常に悩ましいところですよ、地域のほうにはいろんな施設などありますよね。そういった地域資源をぜひ開拓していただいて、そちらのほうのお部屋なり広場なり借りられて何かできればなというふうにも考えますので、ぜひ行政のほうでもそちらのほうを動いていただければありがたいなと思っております。ありがとうございます。

それでは、保健福祉センター所長、益子所長からお願いします。

保健福祉センター所長 本日は熱心な討論で、大変貴重な意見を聞かせていただきまして、ありがとうございます。その中で災害時医療のことについて、御発言がありましたが、ことしは災害時医療部会としては、避難所が立ち上がった後の巡回診療の訓練を医師会の先生方と協力してやる予定になっております。また、聖マリアンナと田園調布学園大学との三者協定の中で、去年はシンポジウムをやったのですけれども、ことしは本格的な区民意識調査をやる予定になっておりまして、医療ニーズに関しても、区民の皆さんの意見を聞くと同時に、医師会の先生方をお願いして、供給する側

の意見も今回は聴取する予定になっていまして、その両者の思いを宮前区の医療、地域の医療の構築に役立てていければというふうに考えております。

川田委員長 ありがとうございます。

ということで、予定の時間に来てしまいましたが、どうでしょうか。皆さん方も、この場で区役所の方の御意見を聞くことはとてもいいというふうに捉えておりますので、最後までお話を伺ってもよろしいですかね。ちょっと時間は延長しますけれども。事務局のほうは大丈夫でしょうか。よろしいですか。

それでは、続きまして、小林向丘出張所長、お願いいたします。

向丘出張所長 出張所の小林です。

先ほど場というものの話がありましたけれども、出張所にもボランティアの方ですとか地域の活動のためにあるスペースがございます。今でも活用していただいているんですが、先ほど出たスモールビジネスということになると、営業的というんですか、利益を上げるという形になりますと、少しハードルはありますけれども、ボランティアとしては、ぜひ御相談いただいて活用していただけると出張所としてもありがたいので、その辺よろしくお願ひしたいと思ひます。

川田委員長 ありがとうございます。

出張所からちょっと出たらどうですか。大丈夫ですか。大丈夫ですか。販売。大丈夫ですかね。大丈夫ですか、区長。まだはっきりとは答えられませんか。わかりました。

それでは、福嶺区民サービス部長、よろしくお願ひいたします。

区民サービス部長 認知症のサポーターについてもスモールビジネスについても、非常に場が大事ということがありまして、そうした中で、持田参与から平瀬川の例が出されまして、中学生、小中学生を含めて世代を超えて活動しているので続いているんだということが非常によくわかりました。

そうした中で、認知症サポーター養成講座のほうも中学生が参加したり、スモールビジネスのほうも子育て世代の若いお母さんが参加したりということで、今後、そうした世代間交流が図れば非常にいいなという感想でございます。本当にどうもありがとうございました。

川田委員長 どうもありがとうございました。

企画課は抜かして全員の方から御意見をいただきました。これで堤副区長にお戻りいたします。

3 その他の連絡事項

司会（堤） 川田委員長、ありがとうございました。本日は長時間にわたり活発に御議論

をいただきまして、まことにありがとうございます。

この後は事務連絡に移らせていただきたいと思います。事務連絡は企画課の小西からさせていただきます。

事務局（小西） 事務連絡させていただきます。

表紙の次第をごらんください。次回の各部会の日程について御連絡差し上げたいと思います。

今回は第8回の地域福祉部会が7月10日、月曜日に開かれます。それから、同じ週、7月14日の金曜日に第8回のみやまえ活性部会が開催されます。いずれも18時から区役所の第1会議室を用意しておりますので、皆様、よろしく願いいたします。

事務連絡は以上です。

これをもちまして第5回の区民会議を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

午後7時57分閉会